

新 教育の本林



ほっかいどう

ひきこもりの経験者が自ら体験を語ることで解決策をさぐる「ひきこもり大学」の道内版「道産こもり179大学」が8日、札幌市内で初めて開かれた。ひきこもりの実態に詳しいライターや経験者が講演し、家族や支援者、行政関係者ら約70人が聴き入った。ひきこもりから抜け出すため、できることは何か。

【千々部一好】

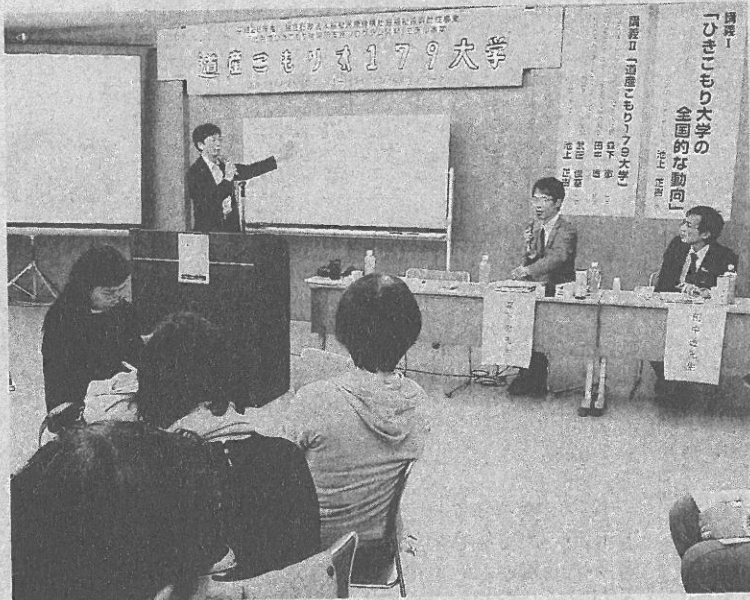
逆転の発想で

ひきこもり大学は経験者を講師に迎えて体験を語ってもらうことで、人間関係の修復や周囲の誤解をなくすのが狙い。

東京で昨年9月、初めて開かれた。自分が伝えたいテーマに沿って「大人の発

ひきこもり大学

経験者を主役に



札幌で初開催 社会復帰の課題は

札幌の支援団体「NPO法 著者で、同大学に関わる池人レター・ポスト・フレン ド相談ネットワーク」が開いた。「大人のひきこもり」の

身が主役となる試みとして生まれた」と話した。つながる努力も 大学受験の失敗や精神疾

より深刻な中高年

患で2度のひきこもりを経験した函館圏フリースクール「すまいる」の田中透事務局長(30)は「自宅で笑顔の練習をし、多くの本を読んだ。明らかな言葉を探した。心の中のコップの水がきれいになるように努力し、社会にようやく出られるようになった」と経験を披露した。

また当事者らによる支援団体「グローバル・シッパ ス(こうべ)(兵庫東姫路市)の森下徹代表(47)は「外部経験者の視点から解決策をさぐった「ひきこもり大学」の道内版「道産こもり179大学」

札幌市中央区で